

# 大鹿村議会だより

第7号 平成26年7月15日 発行:大鹿村議会 TEL:0265-39-2001

平成26年6月

## 大鹿村議会6月定例会

平成二十六年六月大鹿村議会定例会が六月十日から十七日までの八日間の会期で開会されました。今定例会に提案された議案等は、報告十件、付議事件六件、議員発議三件で、すべて原案どおり承認・可決されました。請願・陳情は請願三件で、一件は継続審査、二件は採択されました。

### 報 告

**報告第一号** 大鹿村税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認を求めるについて

**報告第二号** 大鹿村国民健康保険税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認を求めるについて

**報告第三号** 平成二十五年大鹿村一般会計補正予算(第五号)の専決処分の承認を求めるについて

**報告第四号** 平成二十五年大鹿村国民健康保険特別会計補正予算(第五号)の専決処分の承認を求めるについて

**報告第五号** 平成二十五年大鹿村立診療所特別会計補正予算(第五号)の専決処分の承認を求めるについて

**報告第六号** 平成二十五年大鹿村営水道特別会計補正予算(第五号)の専決処分の承認を求めるについて

**報告第七号** 平成二十五年大鹿村介護保険特別会計補正予算(第四号)の専決処分の承認を求めるについて

**報告第八号** 平成二十五年大鹿村後期高齢者医療特別会計補正予算(第三号)の専決処分の承認を求めるについて

**報告第九号** 平成二十五年大鹿村一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について

**報告第十号** 専決処分手項の報告について

### 付議事件

**議案第一号** 大鹿村非常勤消防団員に係る退職報奨金の支給に関する条例の一部を改正する条例の制定について

**議案第二号** 平成二十六年大鹿村一般会計補正予算(第一号)について

▼交流センター大広間の改修工事に二四七三万円など。工事期間は七月後半から二か月程度、たそうです。

### 請 願

一、集团的自衛権についての憲法解釈変更をしないよう関係機関に意見書を提出することを求める請願

▼総務社教常任委員会では継続審査。本会議でも継続審査に賛成四人で継続審査となりました。しかし、集团的自衛権の行使容認という重要な問題が、国民の理解が十分に得られてはいない状況で拙速に閣議決定されるべきではないとの観点から、別途、議員発議で立憲主義に基づく慎重審議を求める意見書を提出することになりました。

二、「義務教育費国庫負担制度の堅持」を求める請願書

三、国の責任による三十五人以下学級

推進と、教育予算の増額を求める意見書提出に関する請願書

▼いずれも採択され意見書を提出。

## 議員発議

発議第一号 「義務教育費国庫負担制度の堅持」を求める意見書の提出につ

いて  
 以下学級推進と、教育予算の増額を求める意見書の提出について  
 発議第三号 集団的自衛権の行使容認について、立憲主義に基づく慎重審議を求める意見書の提出について

### 集団的自衛権の行使容認について、立憲主義に基づく慎重審議を求める意見書

これまでわが国の歴代政府は集団的自衛権の行使について、認めないとする見解を維持してきましたが、昨今、特定の周辺国との政治的緊張の高まりに伴い、政府与党を中心に集団的自衛権の行使容認に向けた議論が急がれる傾向にあります。

集団的自衛権の行使を容認するか否かは、わが国の安全保障政策上極めて重要な問題であり、本来は立憲主義に基づき、国会を中心として憲法改正の是非を含めた国民的な議論により決定されるべきことですが、現在、安倍内閣のもと、集団的自衛権の行使を憲法解釈の変更によって容認しようとする閣議決定を今国会中に成立させるため、政府与党内での協議が進められています。

しかし、このことに対し国民の理解が十分に得られているとは言えず、マスコミ各社の世論調査でも賛否にはばらつきがあり、議論がまだ煮つまっていないことを示しています。また、「性急なスケジュールで検討が進められている」として政権与党内部からも慎重審議を求める声が上がっており、このまま拙速に集団的自衛権の行使容認が決定されてしまう事を多くの国民は望んでいません。

そして、同時に平和的外交努力により、周辺諸国間の平和状態の維持のために、わが国が積極的な役割を果たすことも求められています。

よって、国におかれましては、以下の事を実現できるようお取り組みいただきますよう要望します。

1. 集団的自衛権の行使容認に関しては、立憲主義に基づき慎重に審議を尽くし、国民の十分な理解を得た後、意思決定をすること。
2. 政治的な緊張関係にある特定周辺諸国との関係を改善し、緊張を緩和できるよう、平和的外交努力を尽くすこと。

## 一般質問

○東村邦子議員

\*村内残土処理候補地について

【質問】 先般、住民懇談会が終わってか

ら、残土処理候補地について村民の方から質問があつた。懇談会の資料に、

「終了後六月頃から、村内で残土処理

又は仮置き可能な候補地の募集を行う予定です。応募条件、資格等は」とあ

り、国土交通省の事業認可が九月になるのに、候補地を募集して、さらに選定するのは時期尚早、早すぎるのではないかというものだ。

しかし、残土受け入れの他の地域への協力体制を図る姿勢も当然あるのではと思われる。また、松川インター大鹿線の改良工事の要望を強く推し進めている大鹿村にとって、改良工事までの残土仮置き場を確保するものにしておきたいという狙いは十分推し量れる。

懇談会の際は応募条件の説明が主で、根底にある事情や狙いの詳しい説明は少なかつたように思う。大鹿村の生命線、ライフラインである松川インター大鹿線にかかわる大事な要素を含んだものの、村長の候補地募集の真意を詳しく伺いたい。

【村長】 もし応募があつたとしても、決定までには相当時間がかかる。なので、

このような時期もということでお話をしたわけだが、条件等について質問があつたので、さらに研究をしていかなければいけないと思っている。また、リニア事業の認可の時期や事業全体の動きを見ながら、改めて時期を判断しなければいけないのではないかと思っている。

真意というご質問があつたが、たとえば道路が改良されたとしても、あの道路を通る車は一台でも少ない方がいい。だから、村内でも多少なりとも埋めてもいいという方がいらつしやれば、その希望を取ってそちらへ持つていくのが、それこそ住民生活に一番大事な道路なので、使いやすい、その意味しか持っていない。

【質問】 懇談会の資料にもう一つ触れさせていただくと、「村内に残土処理候補地を確保し、生活環境を守る必要があります」というくだりがあり、その二項目目に「村内及び村外への残土運搬車両の通行を一台でも減らすため、村内の残土処理候補地を募集し」とあるが、これは問題ではないかという指摘もあつた。なぜなら、村内で残土をすべて処理すれば、残土運搬車両のダンプはゼロになると拡大解釈できるわけで、JR東海の術中、迷惑の手中に陥ってしまうのではないかとの懸念が

らの指摘だ。「残土運搬の車両を一台でも減らす」という単純な表現というか、その部分でちよつとこだわりがある。

残土処理場の考え方も一本筋を通して、大鹿の地形を極力変えない方向で踏ん張っていくのが最善ではないかと思うが、村長の考え方を伺いたい。

**村長** 従前から、村内には地形的に見て、また景観上見て、さらに地質等災害に対しても、どう考えてみても、安全に大量に残土を処理する場所は見当たらないということはずっと申し上げてきているつもりだ。今回募集しても決して大規模なものはないと思つているし、美しい村の村づくり条例により、大量のものを捨てるような場所、非常に高い盛り土をするというものは、こちらからも申し上げることができるので、ご懸念の村の中の地形を極端に大きく変えるような残土処理は考えられないと思つている。

**質問** 拡大解釈して、村で残土処理を全部して、ゼロにするというふうには私も取っていない。ただ、地形を大きく変える方向は考えていないというお話であれば、例えば「残土処理運搬車を一台でも減らすために」というくたりの部分を、あくまでも大鹿村民の利害というか、生活にかかわる視点で発

想していただくと、「松川インター大鹿線の改良を推し進めるために、改良工事期間に発生する坑口からの残土を仮置きする残土処理候補地を募集し、災害の危険がなく周辺の同意が得られる適地を検討する」としてはいかがか。

残土処理に関しても、景観と同じく、ぶれない筋を通したリーダーシップをぜひ発揮していただきたい。

#### ○北島千良穂議員

**\*大鹿村の災害に対する危機管理体制はできているか**

**質問** 東日本大震災から早くも三年が過ぎた。三月二十八日には南海トラフ巨大地震対策の基本方針となる防災対策推進基本計画を政府は決めている。南海トラフ巨大地震で大鹿にも震度六強が予想されているが、村ではすべての災害について危機管理体制ができていくか。水害、風害、雪害、地震などあるが、住民は災害時には自主防災班や消防団の指示に従う。防災マップも配布されているので参考にして行動すると思うが、行政自体の危機管理はどのようになっているか。

いざ災害というときの初動体制は、行政の行動は、自治会と行政との双方の連絡は、安全確認は、その他もろもろのことはあると思うが、危機管理

体制の訓練などしたことがあるか。

以前、住民との連帯を深めていきたいので、各自治会に担当職員を置くと言われたが、この配置職員が災害時には活躍してくれるのではないか。

**村長** 災害についてはいろいろあり、対応も一律ではないが、ケースバイケースと言わざるを得ない。水害や雪害などはある程度の予測ができるし、警報等が発せられるので準備なども可能で、こちらからも勧告や指示は出せると思う。ただ、地震や火災などについては、当然その場その場で即対応していただかなければならないと思う。

どのような場合でも、最優先されるのは自らの命を自らが守つていただくことだと思う。水害、雪害については訓練を続けてきている。村や消防団、自主防などの情報によつて行動は可能かと思う。他の突発的な災害については、それぞれの自己の判断、また近傍の皆さんの判断によるところが最も大事になつてくる。まず自助、それから近傍の皆さんとの協働による共助で、とにかく命を守つていただきたい。

命さえ守られれば、次のさらに安全な行動を取ることができる。その辺になると、消防なり村なりいろいろな情報を流すことができるし、援助の行動も取ることができるように思

う。

自治会担当職員については、何年か指定してきたが、なかなか機能しなかった。再度考えるために本年は定めていない。一方的ではあるが、村内を七つの班に分けて、災害時には情報収集に当たらせるよう職員を配置することとしている。

**総務課長** 大鹿村役場職員の大規模災害時初動マニュアルに基づき、職員は行動する。

まず震度四の地震が発生した場合や東海地震の判定会議が招集された場合、土砂災害の警戒情報が発令されたり、それに伴つて小規模災害が発生した場合は、第一配備体制といつて、村長、副村長、教育長以下、管理職の職員、行政係長、教育委員会事務局長、正副消防団長が参集する。

次に東海地震の注意情報が発令された場合や、予知情報が発令されて警戒宣言が発表になった、震度五弱以上の地震が発生した場合、大規模災害の発生恐れがある場合や大規模災害が発生した場合については、地震災害警戒本部や災害対策本部を設置するので、全職員が参集する。

災害警戒本部や災害対策本部を設置した後、初動体制については村内の被災状況、その他情報を迅速に把握し



て、救助要請等いろいろな判断の材料とするために情報収集に尽力する。あと、村内の限られた資源を被害拡大防止や人命救助に投入することも行う。

あと、災害対策業務として、避難勧告、避難指示等の発令や、災害が発生した場合には避難所の開設、消防、警察、自衛隊への災害派遣要請等を行うこともある。

あと自治会と行政との連絡だが、災害時には一般電話や携帯電話は使用できなくなることが想定されるが、同報無線の屋外子局にある無線により役場との双方向が可能になる。

危機管理の組織の対応は総務課が行っている。職員に対する危機管理の訓練については、平成二十三年度に国土交通省と一緒に、また二十四年度には飯田の広域消防本部と合同で、ロールプレイング方式という現実起こる場面を想定して、それぞれ職員が役割を演じる方式で訓練を行っている。今後もいろいろな方法を検討し、実施していきたい。

村内を七つの班に分けて役場職員を派遣することの補足だが、一つの班について役場職員二人体制で状況把握や地区住民の方と連携して救護等に当たる。役場職員も人数に限りがあるので、最小限の編成で情報収集に当たるよう

になっている。

**【質問】** 高齢化が進む大鹿では、どうしても行政に頼らなくてはならないことがあると思う。二月に二度の大雪があったが、二回とも休日だった。二度目の雪のとき、役場の初動体制に少し問題があったと聞いている。課長クラスまでの管理職は、休日や夜間であっても当直職員との連絡を取り、対策の体制を整えてほしい。

**【村長】** 雪のときの状況については、不安を与えたのなら深く反省し、今後はそのようなことがないような体制を取っていかなくてはならないと思っている。

#### ○河本明代議員

\*リニア評価書を受けた今後の対応、JR東海との協定について

**【質問】** 四月二十三日に、JR東海は環境影響評価書を国土交通省に提出した。六月五日には環境省の意見が国交省に提出された。JR東海の評価書では、あくまで二〇二七年開業目標を前提に、小渋川橋梁の地中化など、工期が延長してしまう路線計画の変更を伴う要望は一切反映されず、また工事用道路や最大一七三六台の大型車の運行といった数字なども準備書と変わらず、ストックヤードの確保に努め、台

数を調整するといった曖昧な表現にとどまっており、特に工事予定地付近の住民の不安はますます高まっている。JR東海の環境影響評価書、それに対する環境省の意見をどのようにとらえ、今後どのような取り組みを考えているか。

また、村では今、小渋線等の道路改良や国道一五二号線の代替ルートを求めているわけだが、道路改良で渋滞はある程度解消できたとしても、同じ台数の大型車が付近を通行すれば、大気質や騒音、振動などの影響はあまり変わらないと思われるので、協定やモニタリングがとても重要になってくる。

しかし、評価書の記載では、大気質、騒音、振動のモニタリングは工事の最盛期に一回とされているなど、JR東海の実施するモニタリングや事後調査だけでは住民の不安は到底払拭できるものではない。住民の生活環境を守るために、どのような協定内容を考えているか。知事意見等では工事用車両の規格、通行時間、一日の通行台数などとなっていたが、基準値を設けて、その基準を超えたら工事を中断して対策を考えるといった内容も必要だと思うが、村長の考えをお伺いしたい。

**【村長】** リニア工事についてはJR東海において環境アセスメントの手続きが

着々と進められてきていると感じている。方法書、準備書、評価書と進んできたわけだが、村の要望についてはなかなか明らかな回答は得られていないと思っている。また、先日環境省の意見も公表されたが、村の要望について具体的な言及はなかったと思っている。この意見については、知事の意見も参考にする中で、対策委員会の中でまた研究・検討していきたい。

それから、モニタリングの件だ。準備書には記述がなくて、多くのところからの意見によりモニタリングの実施と公表が評価書で記載されたと思っている。おっしゃるとおり最盛期一回ということでは何もない。当然ながら進行状況に合わせたり、期間を定めた中での回数などを求めて、公表などを協議しながら求めていきたいと思っている。

JR東海は協定について締結を明言はしていない。車両の運行に関する件について、台数、安全対策を確認する文書の交換には応じるという何となく中途半端な文言なので、これについては大鹿ばかりではなく、関係するところとも協調をはかりながら求めていかなければならないと思っている。

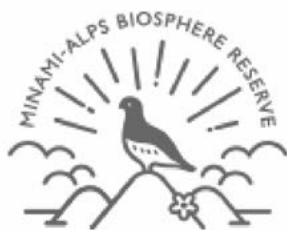
また、環境に関するモニタリングの結果数値などについて、超過した場合

の対策という話があった。これはすべて、先ほどの公表回数と同時に一緒に確認していく事項と考えている。それらの数値を明示した文書の取り交わしなどを目指していきたい。今後ともJR東海とはいろいろなお話をしていきたい。またご協力いただきたい。

#### \*ユネスコエコパークの拠点について

**質問** 現在スウェーデンで開催されている第二六回ユネスコMAB計画国際調整理事会において、南アルプスがユネスコエコパーク（生物圏保存地域）に登録されることがほぼ確実だ。しかし、村内ではエコパークについての取り組みはこれまでほとんどなされておらず、エコパークと言われても何のこともだか全く分からない村民が大部分ではないかと思う。

今年以南アルプス国立公園指定五〇周年ということで、伊那市で大々的に



開催された記念イベントでも、ほとんど南アルプス北部の話ばかりだったようだ。伊那市はジオパークやエコパークの取り組みに大変熱心で、専門の担当者もいるので、そうした取り組みが生かされていると思う。ジオパークについては大鹿村には中央構造線の露頭があり、拠点施設の博物館もあるが、エコパークについても、今後それそ地域ブランドの一つと位置付けて、村内外への周知・啓発、情報発信が望まれるところだ。

また、静岡県ではリニア工事で懸念される環境影響を継続的に確認していくために中央新幹線環境保全連絡会議が設置された。長野県でも生態系の調査・保全活動に取り組む必要があると考える。十二月の一般質問では、東村議員から希少動植物の保護条例の話もあった。そのような活動のためにもエコパークについての拠点となる場所が必要ではないか。

現状ではジオパークの拠点となつていいる中央構造線博物館がその機能の一部を担っていくような形になるのではないかと思われるが、博物館は既に展示のスペースはいっぱいだ。例えば増設するような形でエコパークについての周知・啓発や情報発信のための展示スペースを設けるなどしてはどうか。

また、村内の人材育成のためには、村民が気軽に学ぶことができるように博物館やろくべん館の大鹿村民の入館料や、村内グループの学習利用を無料にするなどの試みがあった方がよいと思うが、村長のお考えをお伺いしたい。

#### 村長

ご質問の要旨のとおりであると考えている。エコパークという言葉そのものがまだまだ知られていないし、中身についてはもちろんまだまだ知られていないと思っている。今後周知、情報の発信に努めていきたい。

リニアの工事について、自然環境、動植物の生態など、今までになく興味を持たれている。また、この事業のために行われている環境アセスメント調査によって、多くの文献調査が行われた。エコパークの登録申請のためにも多くの委員が学術的な研究をされて、報告書ができています。また、地元においても有志により植物等の調査、動物、野鳥等の調査も実行されている。今後はその多くのデータを知ってもらうようなところが必要になってくようかと思っている。

ご指摘のとおり、ジオパークの拠点である中央構造線博物館、歴史・文化・生活の情報拠点であるろくべん館などが中心として、周知や情報発信を考えていくことになろうかと思ってい

る。今後、研究を進めていく文化施設についても、この二つの建物、またその他の文化を含める中で、一緒に視野に入れて、村の持つっている資源を有効に活用していくように考えていくべきだと思っている。

あと、博物館等の入館料について無料にしたらというご提案だ。現在は考えていない。今後、全体のことを考える中で、また研究していく必要はあるうかと思う。

#### 質問

博物館では地域おこし協力隊で新しい若い人が入り、植物等にも非常に興味を持ってきていて、百年先を育む会の植生調査等にも参加してくれているので、当面、拠点が、新しく建物なり何なりができるまでの間としても、博物館で情報発信はお願いできるのではないかと期待している。

リニアの調査等も含めて、育む会でもいろいろな調査をしているが、そうした情報をきちんと村でも把握して、データとして管理しておく、そしてまた発信できるような形にまとめる作業がぜひとも必要だと思う。

入館料のことは、現状ほとんどの入館者は村外の方なので、村内の方の入館料を無料にしても、財政的な減収は非常に少ないと聞いている。むしろ積極的に利用していただいて興味を持つ

ていただくことが必要ではないかと思うので、ぜひとも前向きに検討していただければと思う。

**村長** 資料については、こちらがまとめられるレベルのものかどうか分からないが、当然のことながら資料として大切にしていくなが必要があるうかと思う。入館料の件については、今後研究をしていく。

南アルプス北部のお話が多かったということだが、やはり今までの開発状況がこちらの方がはるかに進んでいるので、これはやむを得ないことだと思っている。

**質問** 南アルプス北部については、スーパールン道ができて、北沢峠までバスで行けるようになったというところで人が多くなってきたというわけだが、それに伴って、登山者が増えすぎることによる問題点も一方で生じているのが現状だと思う。不便なことでも今まで南アルプス南部は本当に自然が守られてきた部分があるので、開発が進んでいないことも逆に、南部の財産かと思うので、その辺のバランスを大事に考えていっていただければと思う。

#### ○伊東康明議員

\*公共施設の安全対策と保全修理について

**質問** 大西公園内に遊具や東屋が設置され、多くの子供さんたちが楽しく利用されている。最近、公園近くで熊の目撃情報もあり、また遊具周辺には猿の出没、あるいは鹿の糞も多く、安全面や衛生面で心配する声も村民から出ている。今後、利用者が安心して利用できる施設として、どのような対策をお考えか。

もう一か所、ビガーハウスの南側にある公園に設置してある水車小屋について、過去にかなりの補修修理をされているが、現在、水車の部分は傷みが激しく、稼働は不可能な状態で、水車が傾き、大変危険な状態になっている。近所のお土産店等の話を聞くと、観光客の小さなお子さんたちが水遊びをする姿も多々見受けられ、その都度注意をしているところだとお聞きしている。また、園内の植木の管理も十分にされておらず、大変伸びきった状態だ。観光案内所やお土産店もあり、景観も大変よくない。今後、保全修理を行う計画があるのか、また、水路池、駐車場を含めた公園の整備や見直しなど、どのようにお考えか。

今年の当初予算で見ると、するぎ農園内にも水車はあり、その施設の改修工事として循環ポンプの設置というところで予算が盛られている。ビガーラン

ドにおいても、樹木の剪定ということでも当初予算に盛り込まれている。ただ、水車小屋については一切触れられていないので、そのことについてどのようにお考えかお聞かせいただきたい。

**村長** 一点目だが、熊については正直いって想定していなかった。ただ、あそこに子供さんたちが行くためには、遠方にあるため、子供さんたちだけで行くことは多分あまりないと思っている。また、熊については、常にそこにいるわけではないと思うし、大人の方が多分ついていかれると思うので、大人の方の冷静な判断で対応していただくしかないのかなと思っている。

それから、鹿の糞の対策だ。確かに大西公園内はいい餌場みたいな感じになっており、鹿の侵入はかなりあると思っている。これを防ぐとなると、柵を張るような対策になるうかと思うが、何分にも非常に広い範囲だ。しかしながら、公園内に植えたものに対する保護も考えなければならぬので、具体的な研究をしてみたいと思っている。どうすれば効果が上がるのか、どのくらいの費用がかかるのかを研究してみたいし、可能ならば、早めに着手する必要があるかと思っている。

二点目だが、水車小屋について、今年の二十六年度予算要求で担当課から

は修理の予算要求があった。しかしながら、全体をもう一度考えなければということ、修理するのか、撤去するのか、あの地域一帯の取り扱いについて検討する必要があるだろうということ、とで予算計上はしなかった。植樹についての整備は予算化した。水車について現在、立ち入りを遠慮してもらうような表示はしてあるが、改めてしっかりとした調査をした上で撤去などを考えていきたい。

利用者からも全体についてのレイアウト等、意見が出てきている。今ここので具体的にどうこうと言えないが、今年度なり、早急にレイアウトを見直して対応していきたい。

**質問** 大西公園については、せめて注意看板ぐらいは、早急に出していただいた方がいいのではないか。

ビガーランドについては、あそこを利用している皆さんからは、前に池があったりして、店が一步奥に入ってしまったというので、大変お客さんが入りにくいという話も聞いた。南側を公園にして、秋葉路や観光案内所等に寄りつきのいい駐車場に整備するとか、そんな方向でご検討いただければご提案申し上げます。

◆ビガーランドの水車は、この後、早速撤去されました。